

富岡町議会全員協議会日程

日時：平成28年7月4日

時間：臨時会終了後

富岡町役場 桑野分室

開 議 午前11時09分

出席議員（13名）

議 長	塚 野 芳 美 君	1 番	渡 辺 英 博 君
2 番	高 野 匠 美 君	3 番	渡 辺 高 一 君
4 番	堀 本 典 明 君	5 番	早 川 恒 久 君
6 番	遠 藤 一 善 君	7 番	安 藤 正 純 君
9 番	山 本 育 男 君	10 番	高 野 泰 君
11 番	黒 沢 英 男 君	12 番	高 橋 実 君
13 番	渡 辺 三 男 君		

欠席議員（1名）

8 番 宇佐神 幸 一 君

説明のための出席者

町 長	宮 本 皓 一 君
副 町 長	齊 藤 紀 明 君
副 町 長	滝 沢 一 美 君
教 育 長	石 井 賢 一 君
参 事 兼 会 計 管 理 者	佐 藤 臣 克 君
参 事 兼 総 務 課 長	伏 見 克 彦 君
企 画 課 長	林 紀 夫 君
税 務 課 長	三 瓶 雅 弘 君
参 事 兼 健康福祉課長	猪 狩 隆 君
住 民 課 長	植 杉 昭 弘 君
参 事 兼 安全対策課長	渡 辺 弘 道 君

参 事 兼 産 業 振 興 課 長	菅 野 利 行 君
復 興 推 進 課 長	深 谷 高 俊 君
復 旧 課 長	三 瓶 清 一 君
教 育 総 務 課 長	石 井 和 弘 君
い わ き 支 所 長	小 林 元 一 君
拠 点 整 備 課 長	竹 原 信 也 君
統 括 出 張 所 長	三 瓶 直 人 君
参 事 兼 生 活 支 援 課 長	林 志 信 君
総 務 課 長 補 佐	遠 藤 博 生 君
代 表 監 査 委 員	坂 本 和 久 君

職務のための出席者

議 会 事 務 局 長 事 務 局 長	志 賀 智 秀
議 会 事 務 局 長 庶 務 係 長	大 和 田 豊 一
議 会 事 務 局 任 庶 務 係 主 任	藤 田 志 穂

説明のため出席した者

【福島第一原子力発電所事故に係る通報・報告問題関係】

代表執行役副社長 福島復興本社代表 兼 福島本部部長 兼 原子力・立地 本部副本部長	石 崎 芳 行 君
福島復興本社 福島本部復興 推進室副室長	塩 原 秀 久 君

【帰還困難区域の先行除染関係】

福 島 環 境 再 生 本 部 長	坂 川 勉 君
福 島 環 境 再 生 事 務 所 除 染 対 策 第 一 課 長	須 田 恵 理 子 君
福 島 環 境 再 生 事 務 所 除 染 対 策 第 一 課 事 業 管 理 専 門 官	中 川 春 菜 君

福島環境
再生事務所
放射能汚染廃棄
物対策第一課
建物解体廃棄物
処理推進室長

中 川 正 則 君

福島環境
再生事務所
県中・県南支所
首席除染推進官

赤 羽 郁 男 君

付議事件

1. 福島第一原子力発電所事故に係る通報・報告問題について
2. 帰還困難区域の先行除染について
3. 富岡町文化交流センター災害復旧工事について
4. その他

開 会 (午前11時09分)

○議長（塚野芳美君） それでは、ただいまより富岡町議会全員協議会を開会いたします。

ただいまの出席議員は13名であります。欠席議員は1名であります。説明のための出席者は、町長、副町長、教育長、そのほか関係各位であります。職務のための出席者は、議会事務局長、庶務係長、庶務係主任であります。

付議事件に入る前に、町長より全員協議会開催の理由の説明を求めます。

町長。

○町長（宮本皓一君） 議員の皆様には臨時会に引き続き全員協議会にご出席をいただき、まことにありがとうございます。

本日の全員協議会の案件は、福島第一原子力発電所事故に係る通報・報告問題について東京電力から、帰還困難区域の先行除染について環境省から、それぞれ説明を受けるものでございます。また、町からは、富岡町文化交流センター災害復旧工事について、工事の概要、今後のスケジュールなどをご説明するものであります。いずれの案件も、今後の町の復興に関連する非常に重要な案件でありますので、議員各位と情報の共有を図ってまいりたいと考えております。議員の皆様の貴重なご意見をお願い申し上げ、挨拶いたします。

○議長（塚野芳美君） それでは、付議事件に入ります。

付議事件1、福島第一原子力発電所事故に係る通報・報告問題についての説明を求めますが、説明の前に石崎代表よりご挨拶をいただきたいと思います。

石崎さん。

○代表執行役副社長福島復興本社代表兼福島本部長兼原子力・立地本部副本部長（石崎芳行君） おはようございます。東京電力福島復興本社代表の石崎でございます。本日は、こういうお時間をいただきましてまことにありがとうございます。

そして、まず私どもの原発事故で今なお富岡町の皆さんを初め福島の皆さん、そして社会の皆さんに大変なご迷惑、ご心配をおかけし続けておること、改めまして深くおわび申し上げます。本当に申しわけございません。

そういう中でございますけれども、本日お時間をいただきまして、私どもの事故直後の炉心溶融、いわゆるメルトダウンのご報告、通報が非常に不手際、そして隠蔽があったということがはっきりいたしましたので、それについてこれからご説明をさせていただきます。通報のおくれ、報告の不手際があったこと、本当に申しわけなく思っております。まして、それが当時の社長からの指示で、実質隠蔽があったということで、これはもう新しい会社の体制としましても大変重く受けとめております。本当に申しわけなく思っております。

そういう過去のいわゆる隠蔽体質を払拭すべく、今新しい体制で再発防止対策、これからその内容については詳しくご説明させていただきますけれども、再発防止対策をしっかりと立て、社員一人一

人、そして作業をやる方まで含めて一人一人に決まり、マニュアル、そういったものをしっかり遵守する、そういう体制を、さらには会社としての隠蔽体質を払拭する、そういう体制をとっております。それは、今後私どものいわゆる行動で皆様方にお示しをするしかございませんけれども、今日はその内容についてご説明させていただきまして、またいろいろご意見をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（塚野芳美君） それでは、説明を求めますが、説明は着座のままで結構です。塩原さんでよろしいですか。

塩原さん。

○福島復興本社福島本部復興推進室副室長（塩原秀久君） 私、復興推進室の塩原と申します。ご説明をさせていただきます。よろしくお願いします。

お手元のほうに2種類の資料がお配りされているかと思いますが、1つは厚いほうでございます。東京電力としての反省と誓いというものでございます。こちらが第三者委員会の報告を受けまして、当社としまして反省また誓いにつきましてまとめたものでございます。もう一つ、横書きのものでございますが、先ほどの資料につきまして概要としてまとめたものになります。本日は、この概要版を用いまして状況につきましてご説明させていただきたいと思っております。

ページをめくっていただきたいと思います。まず、右下1と書いてありますけれども、そちらにこの報告の概要になってございます。これまでの経緯、また先ほど代表のほうからありました反省と誓い、また今後の対応ということで書いてございます。本日ここは読んでいただきたいと思います。2ページ目、ここからポイントになりますので、ご説明をさせていただきたいと思っております。こちらにつきましては、第三者検討委員会の報告のポイントをまとめたものでございます。大きく2つございます。1つが①と書いてございますが、事故当時の社内マニュアルに従って、炉心溶融という判断をして報告しなくてはならないものでありましたが、それをしなかったという内容でございます。また、②でございますけれども、これは新潟県の話でございますけれども、この技術委員会に対しまして、事故当時の経緯の中で誤った説明をずっとしてしまったということでございます。

まず、①のほう、上のほうからご説明させていただきますが、当社の社長が炉心溶融という言葉を使わないようにという指示をしてしまいました。その結果、社内にはその用語を控えるという認識が広まってしまいました。その結果としまして、福島県また富岡町を初めとします地元自治体に対しまして、正確なご説明ができないという状況をつくってしまったということでございます。

2つ目、新潟県の技術委員会でございますけれども、炉心溶融という言葉の定義、こちらにつきまして議論があったわけでございます。その中で、ぼちの2つ目でございますけれども、その技術委員会を対応していた社員につきましては、社内マニュアルに溶融という定義があるということを知らないまま対応していたという状況でございます。一方、ぼちの3つ目になりますけれども、社内マニュアルに炉心溶融の定義があるということを知っていた社員でございますけれども、こちらは防災を担

当しておりました一部の者に限られておりました。また、この一部の人間につきましては、技術委員会でこの用語の定義、マニュアルの中で扱っていること、これが問題になっていることを知らないという状況がございました。そういう中で、先ほど言ったように長い間誤った説明を繰り返したということでございます。

ページをめくっていただきまして、3番でございますけれども、これは先ほど石崎のほうから反省をさせていただいた内容でございますので、見ていただければと思います。

4ページ目以降が今ご紹介しました問題点に対します対策になります。3.11の事故以降、弊社としては原子力安全改革プランを立てまして、コミュニケーションの問題等々につきまして対策をとっておったわけでございますけれども、その後も今回のようなことでご迷惑をかけてしまったということでございます。

まず、①番の炉心溶融につきまして正確な判断、また公表しなかったことにつきまして、大きく2つの問題を認識してございます。1つは通報の問題、もう一つは公表の問題でございます。通報の問題につきましては、事故当時非常に現場が混乱した中で、しっかり責任体制のもとで正しい公表ができなかったということ。また、ここには書いてございませんけれども、本来地元の目線から言いますと、放射線の高さまたプラントの状況を適宜丁寧に説明すべきところをそのようになっていなかったというご指摘がありました。こういう通報問題につきましては、事故以降対策もとってございました。この表で言いますと一番右端のほうでございますけれども、(参考)既出対策と書いてあります。混乱した現場におきまして、しっかり意思の決定ができる、また通報ができるというために、ICSと書いてあります。事故時の指揮命令系統でございますけれども、これが米国流のものでございますが、これを導入しようとしておりました。また、緊急時対策要員の用いますマニュアルの体系整備を進めておったところでございます。これで不十分であるということから、中ほど追加対策と書いてございますが、こちらを実施することにさせていただきます。1つは、地元にとって一番大きな問題であります放射線量の変化をしっかり捉えて判断する、また公表するというところで、そういう放射線が変わるということを前提にした訓練、これをしっかりやるということ。また、これまで緊急時対策要員への教育というものにつきましては、それぞれの専門の教育をしっかりやるということにとどまっていたところがございます。したがって、隣の班でどういうことをやっているのか、どういう問題点、認識を持っているのかということが必ずしも共有できなかったということで、全体的な体系を学習するという内容に改めたいということでございます。

下の段でございますけれども、今度は公表の問題でございます。こちらは、まさに炉心溶融ということを使わなかったということ。また、マスコミに公表する際には、事前に官邸に了解を得るというようなことを実施していたわけでございます。そういう観点から、これまでは、事故以降は右側でございますけれども、広報また通報の総括責任者として、対外対応統括というものを設けてございました。またもう一つ、2つ目のぼちでございますけれども、社会目線で対外対応ができる人間、リ

スクコミュニケーターというものを設置してございます。このようなことをやってまいりました。追加の対応としまして、先ほどの炉心溶融という正しい言葉が使えなかったことの反省を踏まえまして用語の使い方を技術的に判断する責任者、これを設置します。こちらは、原子力のトップでございませ原子力立地本部長がその任に当たるということをさせていただきます。また、ちょっとぼちが飛びまして、ぼちの下から2つ目になりますけれども、社会からの厳しい要請等も想定した防災訓練を実施します。官邸から、またどこから、社長からの何らかの要求があったとしても、正しい通報、正しい判断ができるような訓練を実施したいというものでございます。こちらが炉心溶融の判断、通報の問題でございます。

次のページ、5ページ目につきましては、ただいまご説明しました用語の正しい判断をする原子力立地本部長の、または正しい広報をするための対外対応統括というものはどこに位置するのかというところを絵で示したものでございます。

次のページ、6ページになりますが、こちらが新潟県技術委員会に対しまして事故の経緯を正しく説明しなかったということでございます。こちらも、2つ問題があったというふうに認識してございます。1つ目が情報共有のあり方ということでございます。こちらは、先ほど技術委員会を対応していた人間、また防災マニュアルを担当した人間がそれぞれ自分の仕事はそれなりにしっかりやったという認識なのですけれども、お互いにどういう問題意識を持っていたのかということが必ずしも共通の認識としてなかったということを踏まえまして、組織間または社員間の情報共有のあり方に対する反省でございます。これまでの対応としましてどういうことをやってきたかといいますと、発電所幹部によります情報共有会議を定期的を実施するという。また、原子力の重要な課題につきましては、経営層からメッセージを発信しまして、共通の認識をするというようなことをやってございましたが、十分ではなかったということでございます。これに対しまして追加の対策としまして、まず原子力部門におきます重要な業務課題、これをしっかり情報共有をする。また、その下書いてあります安全設計根拠、これはちょっとまた異質なわけでございますが、こちらは新潟県の技術委員会に対応していた人間が防災マニュアルに炉心溶融の定義が書いてあったこと、これを知らなかったということであるわけでございますが、そもそもその炉心溶融または炉心損傷がどういう議論の中で出てきたのかということをしっかり踏まえて理解していれば、そのマニュアルの中に定義されているはずだということがあった可能性があります。そういうことで、安易に自分の知っている範囲また聞いたことだけで判断するのではなくて、しっかりその根拠まで踏み込んで見返して、かつご説明できるような人間に育てたいという観点でこのような学習もしていきたいというものでございます。

その下、情報を見つけ出す仕組みということでございますが、こちらにつきましては、事故後5年も経過してやっと初めてわかったような事態、社長が炉心溶融ということは使うな等々の話でございませけれども、こういうものにつきましてこれまでどういうことをやってきたかといいますと、原子力2002年の不祥事、または2006年以降のデータ改ざんを踏まえまして、企業倫理の遵守、また言い出す

仕組みという仕組みを構築してまいりました。また、その後今回の3.11の事故以降につきましては、ソーシャルコミュニケーション室またRCと書いてありますリスクコミュニケーターというものをつくりまして、社会目線で判断する。また、リスクにつきましてそれを収集し、経営層等に提言するような仕組みをつくっておったわけでございますけれども、まだまだ出切っていなかったという反省を踏まえまして、追加対策としましては大きく2つ。2つ目、3つ目のぼちでございますけれども、事故当時の通報、公表に関しまして、改めて社員から広く新たな事実ではないかどうかの確認をさせていただきます。また、最後の3つ目でございますけれども、新潟県の技術委員会の検討項目に関しまして、情報提供を再度呼びかけるという対応をさせていただきたいと思います。

なお、これまで新潟県の技術委員会に対しましてしっかり、不誠実な対応をとっていたという反省を踏まえまして、次のページ、7ページでございますけれども、人事措置をさせていただいたということで、社長また原子力のトップであります姉川に対しまして減給、また新潟県の対応をとっておりましたトップにつきましては、嚴重注意ということをさせていただいたということでございます。

8ページ目につきましては、上にありますけれども、これを踏まえましてしっかり取り組んでまいりますという先ほどの代表の挨拶のとおりになってございます。

説明としましては以上になります。

○議長（塚野芳美君） 説明が終わりましたので、これより質疑を許します。質疑ございませんか。

7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 今の説明を聞いていて、何か核心部分から外れたような説明でちょっとがっかりしたのですが、このメルトダウンというのは、国会事故調とか政府事故調とか、もうかなり精密に調査入っているんで、早い段階で私はわかっていると思うのです。この第三者委員会が発表するまで出てこないというのは、全く不思議でならないと。そういう、何で5年も過ぎてからというのはあります。

それと、この第三者委員会は、社長の指示によりというふうに発表しています。その社長が官邸からのそういう命令があったと。その官邸のほうでは、第三者委員会から調べてほしいと、私らがそういう指示をしたかどうか。当時の民主党政権も、一方的な調査で私らがぬれぎぬを着せられたというような新聞発表ありますので、東京電力としては、やはり東京電力の場合は、以前もその原発事故は未曾有の天災だと。人災ではない、企業犯罪ではない。もう何か企業としてよそに振ってしまうと。この社長の発言も、官邸のせいに振ってしまうと。この振ったことが今問題になっているのかなと私は思うのです。本当に官邸の介入があったのかどうか、東京電力としてもやはりはっきりさせるべきだと思うのです。本部長は、以前情報会議という会議でその平成14年のトラブル隠しのときからずっといっているので、その4つの約束とか、させないとかしないとかいろんな風土づくりとか、再発防止策とかいっぱい今までやってきました。今も、そういう今後はこうしますとかメンタル面でのことをおっしゃいますけれども、だけれども、この問題をうやむやにしてふたをしないで、徹底してその解決さ

せるというのが見受けられないのです。その社長は、本当に官邸から指示されたのだからどうか、徹底して東京電力としても第三者委員会にそこも調べてくれと言ってやるお考えがあるかどうか、その辺も聞かせてください。

○議長（塚野芳美君） 石崎さん。

○代表執行役副社長福島復興本社代表兼福島本部長兼原子力・立地本部副本部長（石崎芳行君） 今議員からご指摘いただいたことは、非常に重く受けとめております。

今回第三者委員会、私どもの立場ではなくて、第三者の方に入っていたいただいた調査に基づいて、会社として今ご説明をした反省と誓いというものをまとめてご報告させていただきました。第三者委員会の報告そのものは、これはもうまさに第三者の方に評価をしていただいた内容でございますので、私どもはそれに従ってとにかく二度とこういうことを起こさないということがまず第一だというふうに考えております。そのための再発防止対策について今るご説明をさせていただきましたので、それを社員隅々まで徹底をするということがまず第一かと思っております。

旧官邸にいらした方からいろいろお話があったということは、報道を通じて私も承知はしておりますけれども、会社としては、特にその第三者委員会で報告あったことの再調査は考えてございません。これは、もう第三者委員会で評価された内容でございますので、私どもがこれからやるべきことは、二度とこういうことを起こさない、そういう隠蔽体質をしっかりと払拭してそれを根づかせると。そして、富岡町の皆さんを初め社会の皆さんからご信頼をいただける存在になるということが一番重要だと思っておりますので、何とぞご理解賜りたいと思います。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 7 番、安藤正純君。

○7 番（安藤正純君） 今本部長のほうからは、第三者委員会は本当に第三者の集団で、その報告書に対して異議を唱えないというか、でも社長は官邸からの命令でというふうにおっしゃっているのです。結局東京電力は、私らは政府からの命令で言うな、使うなと言われたから使わなかったのだというふうに逃げているのです。そこは、やはり東京電力としても身の潔白を証明すべきではないのかなと私は思うのです。なぜ当時の官邸からの指示があったかどうかという、国民が一番知りたいところはそこだと思うのです。そここのところを逃げて通らないではっきりさせるべきだと思うのです。

やはり先ほども言わせてもらいましたが、その第一原発3号機の平成14年のトラブル隠し、今回のメルトダウンの件、いろんなまだまだ細かく言えば温度計の改ざんとか、いっぱいこの隠蔽体質というのは今まで十分見させてもらいました。こういったことがオオカミ少年ではないけれども、またか東電というふうなのが私は心の中にありますので、やはり毎日NHKで天気予報のときに東京電力発表ということで、北口放水口とか南口放水口とかセシウム134、137のそういったのが出ている、出ていないのはいつもゼロ、ゼロで上がってくるけれども、あなた方がやっていることは、そういう日常の生活まで疑念を抱かせる行為なのです。きっちり白黒つけるべきだと思います。やはりその指

示されてやっていたのか、体質でやっていたのか、その辺ははっきりさせるべきだと思うのですが、本部長、もう一回お願いします。

○議長（塚野芳美君） 石崎さん。

○代表執行役副社長福島復興本社代表兼福島本部長兼原子力・立地本部副本部長（石崎芳行君） 過去、私どもの原子力部門を初め、いろいろ不祥事を起こしてまいりました。そこはもう深く、深く反省をしております、今までも再発防止対策を講じてきたつもりでありますけれども、今回5年前にこういうことがあったということがさらに明らかになって、私自身も痛恨のきわみでございます。これ以上東京電力グループとしてこういうことが続けば、東京電力グループの存在そのものももう認められない、そういうがけつぶちの状況に来ていると思います。これを二度と起こさないようにするのがまず会社の務めだというふうに考えております。

それから、第三者委員会での発表でございますけれども、当時の社長の官邸からの指示云々のところでありますけれども、当然第三者委員会でも誰から聞いたのか、誰から指示があったのかというのはヒアリングをしているわけですが、本人の記憶がないということでそれ以上追求できなかったという報告になっておりますので、今の会社の現職のメンバーとしては、その第三者委員会の報告をしっかり受けとめて今後の対策に生かしていくと、そういう立場をとらざるを得ないということもご理解いただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 本人が記憶にないということであれば、相手に対して傷つけることだから、やはり官邸からのいつ、誰からという部分が曖昧であれば、それは発表すべきではなかったのかなと、私は個人的にはそう思います。

あと、物すごく簡単な質問ちょっとさせてください、塩原さんで結構ですから。当時あれだけの事故で、メルトダウンというのは技術屋さんだったらもう常識的にメルトダウンしているという、もう炉心は溶融していると。こんな5年もたってからわかる問題ではなくて、もう物すごい訓練もされているわけだから、非常時に対して。メルトダウンしているということは、確信は技術屋さんではしていないのですか。私はもうわかっていることだと思うのですが、その辺塩原さん、どうなのですか。

○議長（塚野芳美君） 塩原さん。

○福島復興本社福島本部復興推進室副室長（塩原秀久君） まず初めに、社長本人が記憶していなかったらという話でございますけれども、大変申しわけないですが、事実何度も確認したところ、社長の記憶がなかったということでございます。では、なぜ書いたのかということでございますけれども、事故当時会見の際に、武藤副社長にメモを渡した人間がでございます。その人間は強く記憶をしていて、その内容をもとに官邸からの指示ということを追認するに至ったということが第三者委員会の報告のほうに書かれておるということでございます。

もう一点、当時あれだけの状況であれば、技術屋であればメルトダウンという状況は知っていたはずではないかということでございます。こちらにつきましても、第三者委員会の報告の中でも書かれているわけですが、溶融という言葉を使わないという認識が深まるまでは、溶融とか炉心損傷という言葉は特にこだわりなく社内でも使っていたという事実でございます。そういう意味で、当然定義の問題はいろいろあるかと思いますが、それなりの損傷して一部燃料が溶けている状況であるということは、容易に技術系の人間であれば理解できるのではないかと思いますし、私もそう思っております。

以上であります。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

6 番、遠藤一善君。

○6 番（遠藤一善君） 6 ページのところに、今の要綱版の。6 ページのところの参考の既出対策等の下の情報を見つけ出す仕組みというところで、企業倫理の遵守ということが書かれているわけですが、当然企業を運営していくに当たっては、その企業の倫理というのはあるわけで、それが一体どこに行くのかということになるかと思います。

縦書きのページのもう最初の四角の枠にも、広く社会の皆様の安全、安心を最優先としというふうに書いてあって、最終的にいろんな言葉の判断をするときには、いろんな状況があらうかと思うのですが、放射能が漏れるというような状態になっているというふうなときがあれば、必ずやはり住民の安全を最優先にしていくということが一番の企業の倫理として必要なことではないのかなというふうに改めて思います。今5年前のことをこうやって出てきますと、どんどん、どんどん冷やされていなくて炉心の中の水が減っているというのをテレビでやったときに、もう既にあのときもテレビの解説者はこのままいけば燃料が溶け出してしまうというようなことは言っておりました。ただ、それを言葉にするかしないかというところに一番の企業の倫理の問題があるわけで、既にやっていたということではなくて、もう改めて仮に社長であろうが、社員であろうが、危険なものを扱っている以上は、住民に危害を及ぼす可能性があることに関してはきちんと対処をするというのが一番の企業の論理、倫理の必要性だと思うのですが、その辺に関しては技術屋、事務系関係なしに会社としてやはりどういうふうな方針でいくのか。既にやっていますというようなほうに書いてあるので、これをもうちょっとどういうふうに考えているのか、ちょっとお聞かせください。

○議長（塚野芳美君） 石崎さん。

○代表執行役副社長福島復興本社代表兼福島本部長兼原子力・立地本部副本部長（石崎芳行君） 議員ご指摘のところは、もう本当におっしゃるとおりでございます。

まず、私どもは、原子力という本当に非常に大きなリスクを抱えたものを扱わせていただいております。それについて、リスクをしっかりと管理するというのは、これは当然でありますけれども、仮に何か起きたら、まずはやはり住民の皆さん、地元の皆さんの安全を最優先に対応するというのが

もう大原則であります。そういう大原則が事故当時結果として非常に通信手段が途絶したとか、いろいろな問題はございましたけれども、それは一つの言いわけにしかすぎずに、とにかくそういう過去をしっかりと反省して、住民の皆さんの健康、安全を最優先にする、そのための対策を今回いろいろ講じているところでございます。

具体的には、1つは先般事故直後に通信手段が途絶したということで、衛星携帯電話とかそれ以外のいわゆる通報ツールをしっかりと整備をするとか、それから今原子力部門とあわせて私のおります復興本社でも、各自治体の皆様ごとに責任体制をとりまして、その責任体制のもとに通報体制がしっかりできるようにと、そういう体制の見直しも行っております。そういうことも含めて、しっかりとまず今度は訓練も必要ですし、その訓練については、やはり行政の皆さんにも時には参加をしていただくようなそういう訓練、まさにそういう訓練を日々そういうものを培っていくということも大事かと思っております。いろいろなそういう対策を総合的に備えて、今後二度とこういうことが起きないようにしっかりとやってまいります。

もう一つ重要なことは、どういうツールを備えても、やはり社員一人一人、社長以下経営陣も含めて企業倫理の再徹底をします。我々は、大変危険なものを扱っている。それを扱うことを皆さん方から認めていただいている。その責任が大きなものがあるということをもう一度社員一人一人まで再徹底をするということがまずもって大事だと思います。そういうこともあわせまして、二度とこういうことがないように徹底してまいりますので、何とぞご理解賜りたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（塚野芳美君） 6番、遠藤一善君。

○6番（遠藤一善君） 最後にもう一つ、この企業倫理というのは、従業員も含めてということになるかと思うのですが、社長含めトップの人間が、これだけ大きなものになれば社長が全て判断をするということではないですが、最後のどちらかを考えなければいけないときに決めることは、やはりこれは町民とか県民とかではなくて、人命をいかに安全にすることということを優先してほしい。たとえば会社がなくなろうが潰れようがどうしても、自分たちの中で何が住民にとって、県民にとって、国民にとって、人の命に携わるようなことが起きようとしているのであれば、それを回避するのがやはり一番の企業の倫理であって、それを最終決定するのは社長を含めた執行部であって、執行部が最後に決めるときの判断は、自分のことではなくて、やはり国民の安全、人の安全ということを優先してやっていくということをお願いをしたいと思います。そこに関しまして、もう一度今度は執行部としてということでお願いします。

○議長（塚野芳美君） 石崎さん。

○代表執行役副社長福島復興本社代表兼福島本部長兼原子力・立地本部副本部長（石崎芳行君） 今のご指摘も大変重く受けとめております。

会社というのは一つの組織で、社長をトップにできておりますけれども、その社長の判断を待たな

くても、今議員がおっしゃられたようにいろいろな事態が進展していく中で、まず人命最優先、安全第一、そういう認識、いわゆる倫理がしっかりしていれば、一人一人が対応できることもあると思います。誰かの判断を仰がなくては行動できないような組織であってはいけないということは、今回の一番の反省の一つでございます。ご指摘しっかり受けとめて、これからそういうことを行動をもって示してまいりますので、何とぞこれからもいろいろご指導いただきたいと思います。ありがとうございます。

○議長（塚野芳美君） よろしいですか。

○6番（遠藤一善君） はい。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

13番、渡辺三男君。

○13番（渡辺三男君） きょうは、炉心溶融についての説明ということで、第三者検証委員会の結果報告とか、今石崎代表からも今後どうするべきかという決意聞かせてもらいました。ぜひそういうふうにしていただきたい。

ただ、きょう出してもらった文書、これが出だしで、初めとしてこれからこういうふうにしていきますよという文面だとは私は思うのですが、やっぱり問題解決しないうちに一から出直せる状況ではないと思うのです。やっぱり12市町村がこれだけの被害をこうむって、我々避難して郡山で今現在いますけれども、こういうふうにして。あの当時を振り返れば悲惨な状況で、我々は本当に先行き真っ暗な状態でもう逃げ回ったような状況なのです。それで、今の検証委員会の中では、記憶がはっきりしないとかどうかのこのという問題で、本当に官邸が指導したのか、それとも電力側が隠蔽工作したのか、この実態は明らかにならないのです。これは、第三者委員会の検証ですから、電力さん側はこれ以上中には入れないということ言っていますが、それをきちんとしないうちに前に進もうとしたって、これはまだ同じことの繰り返しになると思うのです。情報の発信手段がなかったとかどうこの言いますが、あの状況を踏まえて我々も記憶をたどって振り返っていきますと、私は事故当時通り過ぎただけで、一回も川内の体育館やそういうところには泊まったりはしなかったのです。そういう中で、東京電力の広報の人とか、また東京電力の職員である一議員さんとかがきっちり富岡町のこの避難所に張りついていたら、そういうことはよく話聞きます。張りついていても全然情報が入らなかった。確かにその人たちには情報入らなかったのか、入らないようにしていたのか、それは定かではありません。ただ、情報というのは、東京電力の第一原発がこれだけの状況になっていますよ、危険だよ、もうみんな逃げろというのは、職員間では共有されていたのです、携帯電話で。それで、電力の人たちがもう避難所からいち早く去っていったというのが状況なのです。だから、通信網がどうのこうのは、もう問題外だと思うのです。

先ほど石崎代表からも、これだけのリスクをしょった原子力発電所というものを運営している。リスクという言葉出ましたが、我々は今初めてそういう言葉を聞いたのです。安全神話の上に立って、

安全だ、安全だ、安全だ。そういう状況の中で進んできて、やっぱり本当に官邸からそういう言葉が出てきたのか、東京電力の社長が隠蔽したのか、その辺はきっちり答え出してもらわないと我々は納得いきません。やっぱりそういう情報の不信というのは、12市町村全ての人が私は持っていると思います。その辺がこの辺でも臭いものにふたをしろでふたされたのでは、こういう会議を持っていろんな説明聞いても、それは言葉だけにすぎないし、こういう文書をもらっても、真実味がない文書になってしまうのです。もう石崎代表の信念でもいいですので、しっかりとその辺は答えを出していただきたい、これが私の望みです。でないと、もう前には進めないという私考え持っていますので、ぜひその辺は電力さん側ももう一押し、二押ししてきちんとした答えを出していただければありがたいと思います。どうでしょう。

○議長（塚野芳美君） 石崎さん。

○代表執行役副社長福島復興本社代表兼福島本部長兼原子力・立地本部副本部長（石崎芳行君） 今渡辺議員のお言葉、非常に重く受けとめております。しかし、先ほどもお答えをいたしましたけれども、この第三者委員会の調査、そして報告につきましては、私どもが口を出すわけにはいきません。もともと第三者委員会の調査報告というのはそういうものでございまして、それでまたさらに会社として当時の社長を追求するというのも、これはいたしかねるところは何とぞご理解賜りたいと思います。

第三者委員会の報告でも、表現上推認するとか、はっきりしなかったところもいろいろあるとは認識はしておりますけれども、しかし今の私ども現職の者は、何が大事かといいますと、やはり今後こういうことを二度と起こさない、そのためにどういったことを徹底すべきかということをしかりと社員一人一人まで認識をさせて行動させるということが大事だというふうに考えております。大変申しわけありませんけれども、その点につきましては、私どもも限界があるということとはご理解を何とぞ賜りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（塚野芳美君） 13番、渡辺三男君。

○13番（渡辺三男君） ありがとうございます。

ここで石崎代表を責めても、それ以上は進めないという気持ちも十分私もわかっております。ただ、第三者委員会がどうのこうのではなくて、第三者委員会もここで真実にたどりつかないうちに閉めてしまったわけですから、非常にその辺が私は残念ではない。では、どうすればいいのだというのであれば、本当に12市町村、12市町村だけではなくてこれだけの重大事故を起こした東京電力さんが一から出直すためには、私はこういう問題を先送りしたり、もうここでとどまって答えを出さずに進むには、ちょっと問題が私は大き過ぎるのかなと思うのです。一步間違えば犯罪行為ですから、あの思いからしてみれば本当に犯罪行為になってしまいますので、これが確かに情報の不備とかいろんな部分があって、最終的に1年、2年炉心溶融、メルトダウンが2年先にそういう情報が出てきたというのであれば、私も納得いく部分もあるのかなと思うのですが、きょうはもう少し前まで進める

のかなと思ったら、非常にきょうは私残念に聞いておりましたが、今でも避難民はいろいろ各県、市町村に散らばって、そこのはざままで周りからは陰口を言われ、後ろ指を指されて生活しているのです。そういう思いをわからないで、やっぱり臭いものにふたするというのは私理解できないです。ただ、きょう石崎代表の思いは十分受けとめておきます。どうもありがとうございます。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。ないですね。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（塚野芳美君） なければ、これをもって質疑を終了いたします。

以上をもちまして付議事件１、福島第一原子力発電所事故に係る通報・報告問題についてを終わります。

午後１時まで休議いたします。

休 議 （午前１１時５５分）

再 開 （午後 零時５８分）

○議長（塚野芳美君） それでは、再開いたします。

次に、付議事件２、帰還困難区域の先行除染について入りますが、説明をいただく前に坂川さんからご挨拶をいただき、続きまして４名の方に簡単な自己紹介をしていただきたいと思います。

○福島環境再生本部長（坂川 勉君） 福島環境再生本部長の坂川でございます。富岡町の皆様方には、環境省が実施しております除染、建物の解体、そして廃棄物の処理に関しましてご理解またご協力をいただいております。大変ありがとうございます。

本日は、帰還困難区域の中で先行的に夜の森地区におきまして除染、それから建物解体を行うこととしておりますので、それについてご説明させていただきたいと思っております。このことに関しましては、かねてよりご要望いただいていたところでございますが、帰還困難区域ということもございまして、なかなか今まで手がつかなかったところでございます。しかし、帰還困難区域でありましても、復興の拠点ということ、そういう部分に関しましては、各市町村とよくご相談をしながら除染について検討を進めていくと、こういう方針で来たところでございますので、今回私どもも復興庁や支援チームとも調整をいたしまして、このような案を取りまとめたところでございます。本日のご説明の後、できるだけ早く取りかかりたいというふうに考えております。

また、今回ご提示いたしますのは、帰還困難区域の中の一部にとどまっているところでございますけれども、この残りの部分に関しましても、引き続き検討させていただきたいと思っております。ことしの夏ごろにと申し上げておりますけれども、国において帰還困難区域の取り扱いを考え方をまとめるということになっておりますので、そういったものも踏まえまして、引き続き検討を進めさせていただきたいと思っております。どうかよろしくお願いいたします。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（須田恵理子君） 福島環境再生事務所で除染の担当をして

おります除染対策第一課の課長の須田でございます。よろしくお願いいたします。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策第一課建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） 環境省で建物の解体担当しておる中川正則と申します。よろしくお願いいたします。

○福島環境再生事務所除染対策第一課事業管理専門官（中川春菜君） 環境省福祉事務所で除染を担当しております中川と申します。よろしくお願いいたします。

○福島環境再生事務所県中・県南支所首席除染推進官（赤羽郁男君） 県中・県南支所で富岡町の除染担当している赤羽です。よろしくお願いいたします。

○議長（塚野芳美君） それでは、説明に入りますが、説明の後の質疑の際に、私のほうからなかなか名前と顔が一致しませんので、名字をおっしゃっていただいて、それで発言していただきたいと思います。

それでは、説明をお願いいたします。

須田さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（須田恵理子君） では、資料1ページをお開きください。今回の夜の森地区の除染についてでございますが、まず除染の対象範囲です。桜並木と夜の森公園、桜並木への主要接続道路に沿った、道路の端からおおむね50メートルを含む広がりを持った地域を対象としたいと考えております。

具体的には2ページの地図をごらんいただきまして、左側のほうに夜の森駅が示してございますが、その東側の緑の点線で示した区域、ここを対象区域としたいというふうに考えております。この地域の概要でございますが、1ページにお戻りいただきまして、面積は約26ヘクタール、この地域に含まれる建物数は約470棟、道路の総延長は約4キロメートル、農用地の総面積は約1ヘクタールとなっております。宅地、道路、農用地とこれらに隣接する森林の部分の除染をいたしたい、そのように考えております。

3ページをごらんください。除染を実施する際の流れでございますけれども、まず最初、事前調査のために関係人の方にその敷地に立ち入ることについてご了解をいただきたいと考えておりますので、まず町と環境省のほうから必要書類をお送りします。その後、環境省の同意取得の業者、受注者のほうから改めて電話でご連絡をして、その後事前調査に入りたいと考えております。事前調査につきましては、そのお宅の現地で調査を行いまして、それぞれの敷地ごとにその状況に応じて除染方法を定めて除染計画書を作成いたします。除染計画書ができましたら、それについて関係人にご説明をいたしまして、このような形で除染をしたいということをご説明いたしまして、除染の同意をいただくという手順の予定でございます。この同意書の取得の際、除染の計画を説明する際に、建物の解体のご意向があるかどうかということをおわせて聞き取りまして、もしそういったご意向がある場合には、解体の申請についても必要なご案内をしたいと、そのように考えております。同意が得られましたら、実際の除染の作業の実施ということで作業のほうに入りたいと思います。作業終了後には

除染前後の線量についてなどを記入しました除染結果報告書を作成いたしまして、関係人の方にご報告するという予定でございます。これが除染の一連の流れです。

除染に要する期間、4ページにございますけれども、関係人の方へ連絡を開始しましてから事前調査を行いまして、実際の除染の作業に入るまで、ここまでに短くて3カ月から4カ月を要するというふうに考えております。全部のその同意が得られてから除染に着手するというのではなくて、一定程度の同意が得られたら随時除染の作業に入っていきたいと、このように考えております。除染の作業に着手いたしましてからその除染の作業が終わるまで、これには26ヘクタールの全体の除染が完了するまでには着手から1年以上かかるであろうと、このように見込んでおります。仮に居住制限区域の隣接部について先行して実施した場合であっても、その先行箇所の完了にはおよそ6カ月がかかるであろうというふうに見込んでおります。最後の除染報告書の作成、関係人への送付、これにつきましては、それぞれの場所での除染が終了次第随時行いたいというふうに考えております。

5ページ目をごらんください。では、実際この区域の除染をどのように進めていくかでございますけれども、まず1の居住制限区域との隣接部、右下の地図で黄色く塗ってある逆L字のような部分ですけれども、この地域については、特に早急に着手する必要があると考えておりますので、現在富岡町さんの中でやっております既存の除染工事への増工として対応したいと思っております。具体的には、その2の清水J Vのほうに増工して進めようというふうに今は検討しております。この場合ですと、関係人へのご連絡については7月から開始、工事着手は秋ごろになる見込みです。

それから、地図の中で黄色く塗られていない北側の部分でございますが、この部分については除染に関する工事、事前調査、同意取得、除染工事については、いずれも新規発注で進めたいと思っております。これについては、早急に発注をする予定でございますが、工事に着手できるのは早くても来年の1月ころになるであろうと見込んでおります。

6ページをごらんください。この地域における解体工事についてです。居住制限区域との隣接部、5ページの地図の黄色い部分ですが、ここについては除染同様早急に着手する必要があると考えておりますので、この区域について先行して新規に工事を発注したいと思っております。それ以外の北側の部分ですが、ここについては除染工事と解体と密に連携を図って進めていくことが効率的だというふうに考えておりますので、新規で発注する予定の除染工事の中とあわせて、一本化して発注をして進めていこうというふうに今予定をしております。

簡単ですが、説明は以上です。

○議長（塚野芳美君） 説明が終わりましたので、質疑を行います。

12番、高橋実君。

○12番（高橋 実君） まず5ページ、黄色い線、わかりますけれども、この黄色い線の何か終点のところから東に抜ける通りがあるのですけれども、その通りにも複数軒が点在しているのです。そこもあわせてやってもらわないと、結果公平性が保たれないから、今度の新たな工事でやるか、今出し

ているこの地区だとその3工事か、その3のほうのフォローアップで対応できるのであれば対応してもらいたい。王塚地区、あとは一部小浜地区か、このラインの居住制限と困難区域のところにも飛び飛びで複数軒ありますから、それもあわせてやってください。

あと6ページ、解体。これが当初本年度800棟大体予定していたと思うのですけれども、そのほかにふえるわけだと思う。それで、どんどん進めてもらえるのは大変いいことなのではと思うけれども、輸送関係、あとは小浜、毛萱地区の仮置き場の受け入れ交通関係一切、全部把握して物事言っていると思うのだけれども、ちょっとあわせてそれもお示しください。お願いします。

○議長（塚野芳美君） 須田さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（須田恵理子君） 除染について、飛び地のところで宅地があるところできないかというご指摘なのではと思うけれども、どこか後で具体的に確認をさせていただいてちょっと検討したいと思いますので、後ほど情報いただければと思います。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策第一課建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） ただいまご指摘いただきました解体の件でございますが、800軒ご指摘のとおり居住制限区域、準備区域以外の解体というものでプラスアルファでさせていただくことになる予定でございます。

その場合の輸送のルートですとか仮置き場の調整につきましては、今駅前工事始まってございますので、その中から計画を密に立てさせていただくように考えてございます。改めまして、後ほど計画をつくり次第お持ちさせていただければと思ってございます。

以上でございます。

○12番（高橋 実君） 議長、回答もらわれない部分は後から出ているのか、回答もらってから。

○議長（塚野芳美君） 今もう一度言ってください。

中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策第一課建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） 具体的な計画まだ検討中、作成中でございますので、でき上がり次第お持ちさせていただきたいと思えます。

○議長（塚野芳美君） 12番、高橋実君。

○12番（高橋 実君） では、須田さんのやつは後、きょうのうち返答もらえるのか。途切れてしまうのか。後日になるのか、どうなのか。カウントしないで。

○議長（塚野芳美君） 須田さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（須田恵理子君） 済みません、ちょっと話伺ってから回答の日についてもご相談させていただければと思います。

○議長（塚野芳美君） 後日ということですね、では回答は。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（須田恵理子君） 後日にさせていただければ幸いです。

○議長（塚野芳美君） 12番、高橋実君。

○12番（高橋 実君） 時あれば毎回言っているのだけれども、やはり富岡町内の実情をよく把握してからスケジュールを立ててもらわないと、町民が日中戻ってきているわけだから、万が一にもどうという理由あったって巻き添えの事件、事故につながるようなことでは大変困る。

なおかつ、今現在環境省発注の富岡町内の中で、請負業者のゼネコンの現場代理人が富岡町内の現場に常駐しないで広野に陣取ったまま出てこない会社もあるから、現場代理人というものは所長、本部長、従来富岡町内であれば富岡町内に現場事務所を持ってきて、現場代理人は作業の朝から晩までは常駐しなければならない。なおかつ、そこを離れる理由があればかわりの者を立てて、今の組織だと県中・県南のほうにお伺いを立てて許可をもらってやるというのが筋だと思うのだ。特記事項でどういうふうになっているかわからないけれども、何のための現場代理人なのだ。そういう責任の持たない現場代理人しか立てられない会社であればちょっと考えてもらわないと、安心して富岡町のいかなる除染工事でも納得いかなくなってしまう。下からきっちり報告は行っていると思うのだけれども、納得いく返事が全然返ってこない。本部長の責任の問題だから、これ合わせてどういうふうに考えます。

○議長（塚野芳美君） 赤羽さん。

○福島環境再生事務所県中・県南支所首席除染推進官（赤羽郁男君） 議員、ご質問ありがとうございます。

議員おっしゃったとおり、それは1社の話だと思うのですけれども、今その2、その3の業者に関しては、その工事箇所の中に現場事務所を設置しております。1社のみ工事の範囲外に現場事務所を設置している状態です。これに関して、私たちも工事契約等も確認しまして、こちらに関して契約等あと共通仕様書を遵守するようにとただいま指導中でございます。こちらに関しては、近々監督員の立場として工事打ち合わせ簿を切って、受注業者からその回答をもらう予定でおります。ありがとうございます。

○議長（塚野芳美君） 坂川さん。

○福島環境再生本部長（坂川 勉君） 今ご指摘の点につきましては、やはり現場代理人ということですから、現場をきちんと監督してもらわなければいけないということでございますので、また引き続きしっかりやっていただくように指導してまいりたいと考えております。

あとそれから、先ほどの除染の区域の問題ですが、帰還困難区域について先行的に除染するに当たっては、私どもも復興庁支援チームとも調整をいたしまして、今回このような案をご提示させていただいております。ですから、この地図の大体この範囲におさまるようなところであればすぐにご回答できるかと思いますが、ちょっと離れるということになりますと、改めての調整も必要になりますので、そういった意味でまた後日ということにならざるを得ないのではないかと、このように考えております。

○議長（塚野芳美君） 12番、高橋実君。

○12番（高橋 実君） まず、業者の指導、話しするのではなく、あしたからでも実行できないのなら、その工区はストップかけてください、もうストップ。どんどん工事が発注されて富岡町内の工事現場がふえてきているのですから、車両も人も。そういう自分本位の考え持った業者は入れないようにしてください、安心できませんので。指導ではないです、それはもう。ここにも云々と書いてあるのだけれども、環境省の特記事項分はわかりません、私。合法的にやってください、安全のために。

それと、この50メートルの黄色い線云々と言いますけれども、趣旨目的がどういう趣旨なのだから別としても、同じ居住制限と困難区域というライン上を考えたときに、この黄色い南側、ちょうど王塚分でとまっているのです。そこから役場、海のほうに入っていく、同じ状態で海まで。その北側の並びにかなりの軒数ありますから、そういうこともあわせて考えてくださいと言っている。この黄色い線だけ優遇して、あとは後だということではなく、同じ条件なのだから、考え方は。この黄色い線の工事にのせることができないのであれば、今やっているその3の中のフォローアップでふやすとか、そういうふうにやってもらわないと、やっぱりそういう同じ条件下にある町民がおらのところはやってもらった、おらのところはやってもらわれない。では、帰るなということかと、帰町意欲もなくなってきてしまうのだ。避難している町民の事情をよく察知してくれないか、どうせやるのなら。本部長の席に座っているのだから、弁当たがって富岡町内歩いてみなさい。富岡町内歩いてください。視察してください。どうですか。

○議長（塚野芳美君） 坂川さん。

○福島環境再生本部長（坂川 勉君） 今回この区域をお示ししたのは、夜の森地区が復興拠点として位置づけられるというふうに向っておりますので、それを踏まえて復興拠点として除染をする。この区域について、まず先行的に除染をするというふうに考えたものでございます。

なお、今ご指摘があったように、このすぐそばにも家がたくさんあると、このようなことでございますが、そのところに関しましては、帰還困難区域の取り扱いにつきまして国としての方針を検討している、そういう段階でございますので、その方針が決定いたしましたら、それを踏まえて必要な取り組みを行ってまいりたいと、このように考えているところでございます。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 桜並木と夜の森公園というタイトルでスタートしていますよね。この桜並木の桜の樹木、こういったものの除染は樹皮の関係とか、やりづらいという関係もあると思うのだけれども、除染となれば今現在大ざっぱでどれくらいあって、どれくらいに下がるまでやってくれるかの目標値、それがあってしかるべきだと思うのです。ただ、やりました。はい、花見には戻って桜の花見てくださいというのとちょっと違うので、あとこれおおむね1年となっているのだけれども、来年の花見は間に合わないということで解釈でよろしいでしょうか。

あと、この資料の3ページ中段に米印で解体を希望される場合でも、建物以外の部分の除染については先行しますと。結局解体を希望していても、除染を先行させるということになれば、解体したときにまたその除染したところを汚してしまうというような、以前もそういうその議論あったのですが、その辺の考え方を教えてください。

○議長（塚野芳美君） 須田さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（須田恵理子君） まず、その桜並木の除染についてですけども、その目標値はどうかということなのですが、済みません、こちらについては具体的にどのくらいの空間線量率までということをお示しするのは難しいと思っております、できるだけ下げたいというふうに思っております。

来年のお花見には間に合わないのかということですが、これについてはできるだけ進めたいと思っておりますけれども、同意取得がどのくらいとれるのかとか、そういうところも影響してまいりますので、そういった状況を踏まえながらどこかを優先的に進めていくか、そういうことを町のほうと相談しながら進めたいというふうに考えております。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策第一課建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） ご質問いただきました解体の件でございます。ご指摘のとおり、基本的に解体を行ってから除染をしたほうが望ましいという考え我々持っておるところでございますが、解体するやはりその家屋というのは、重要な財産でございまして、解体申請迷われる方、住民の皆様いらっしゃる中でございますので、そういう1軒1軒の状況を住民の皆様ともお話しさせていただきながらしっかり対応してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 桜並木の線量を数値は示せない。示せないのでは、何のための除染なの。花見のときそこを人間が歩いたり、例えばドライブスルーというか、車の中から、車窓から見てくださいという花見なの。それとも、どこかにとめておいて歩いて見られるという花見なのですか、環境省で予定しているのは。結局その夜の森公園とか桜並木、そういったところを心のよりどころということで町が要請してこれ実現した除染なのしょうから、やはり目的達成のためには線量から逃げてはだめなのではないですか。今現在どれくらいあるかもわからないのですか、環境省は。

それで、どれくらいまで下げて、安全だから花見行ってくださいと。全くそういうことを示さないで、除染はしました。大丈夫ですよということになれば、それは環境省が安全宣言をしているというふうになってしまう、住民は。だから、除染の方法も、桜の木の皮をむいてしまうのですか。高圧洗浄機で水をかけて落とすのですか。それで落ちるのですか。そういったことを含めて、線量に対して

もっとシビアに詳しく説明してください。

あと、花見に間に合うか間に合わないか。同意取得の問題とかいろいろあるでしょうから、それは1年かかるものであれば間に合わないし、よそに先行させてやるのであれば間に合うでしょうし、その辺の回答で結構です。

あと解体についても、財産ということで本人の同意取得が必要だということで、中川さんの回答で結構ですから。ただ、線量の数値はこれきっちり示してください。

○議長（塚野芳美君） 赤羽さん。

○福島環境再生事務所県中・県南支所首席除染推進官（赤羽郁男君） ご質問ありがとうございます。

こちらで5ページに記載されているこの逆L字のところの桜並木に関しましては、25年の3月、4月に桜の木とあそここの道路沿いに関して除染をさせていただきました。今回こちらのほうの道路のこの宅地の除染についての線量は、まだ線量調査していませんので、そちらの事前調査ということで宅地の線量、あと家屋の損傷も踏まえて調査をさせていただきます。

ただいまこちらに関しての桜並木の提言なのですけれども、私きょうこちらの資料ちょっと持ってこなかったもので、後で議員のほうに報告させていただきます。その当時の桜並木の除染前と除染後の数字を後ほど議員のほうに提示したいと思います。

以上です。

○議長（塚野芳美君） 7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 私さっき車に乗って桜見、花見をする程度の除染なのか、桜の木の下を歩いて花見ができる程度まで下げてくれるのかということも質問しているのです。そういうことも、結局徹底したレベルというのはコンマ幾つまで下げてもらわないと、あそこで例えば飲み物を首にぶら下げてジュース持ったり、おにぎり持ったり、花見のときに来たときにそういったところに腰かけても大丈夫なのかとか、そういう程度までやってくれるのかという質問なのだけれども、きっちり答えてください。

○議長（塚野芳美君） 赤羽さん。

○福島環境再生事務所県中・県南支所首席除染推進官（赤羽郁男君） 申しわけありませんでした。

私申し上げたかったのは、こちらに関しての道路、あとそのときの桜並木に関しては除染をさせていただきました、そしてそのときの事後モニターが線量等ははかっているのですけれども、その当時こちらのほうに関してまだ居住制限区域、並びこちらの今回行いう予定のところに関しての家屋の除染を行っていなかったもので、このあたりの影響等も十分あるなということで、今回こちらに関して居住制限に関しては除染を終わりました、今回のこちらのほうの帰還困難区域の20メートルをやると、この桜並木のほうの線量も十分低減されるのかなと思って、除染後のその数字を見てまた判断させていただきたいと思っています。

○議長（塚野芳美君） いや、ですから赤羽さん、その20メートルという何か今度新たな数字が出て、

50メートルではなくて20メートルなのですか。それと、どの程度のその花見ということを想定しているのか。ですから、それによって線量を判断するのは変わってくるのですけれども、その辺は国としてはいかがお考えですかということですので、お答えください。

〔これより9番山本郁男君欠席〕

○議長（塚野芳美君） 坂川さん。

○福島環境再生本部長（坂川 勉君） まず、今のこの桜並木のところの線量がどのぐらいになっているのかという、こういうご質問もあったけれども、それに関しては、実は直近のものではなくてまことに申しわけないのですが、1年前の数字がございます。といいますのは、昨年3月までにこの桜並木の道路の部分と歩道の部分だけは除染させていただきましたので、その後に測定をした線量の結果があるということでございまして、それによりますと、道路の中央では平均値が1.81マイクロシーベルトパーアワーで、歩道の平均値は2.76と、こういう数字になっています。それから1年たっておりますので、自然減衰もありますから、もう少し下がってはいると思います。

そして、今後先ほどお示したこの緑色の範囲、ここを除染いたしますと、その道路と歩道の部分だけではなくて、その周りのところも除染されますから、そこからの影響というのもかなり今まであったと思いますので、かなりの程度低減するだろうというふうには考えております。ただ、議員ご指摘のその目標値といいましょうか、そういったところまでは現在まだできておりませんので、まずはしっかり除染をさせていただく。その後で、またモニタリングをさせていただいて、どのぐらいまで下がったか確認をしてまいりたいと、このように考えております。

○議長（塚野芳美君） 7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 1.8とか2.76とか、これは1回除染した後の数字だと思うのですけれども、やはり夜の森公園もモデル除染で以前にやってありますし、今自然減衰という言葉ありましたけれども、確かに若干はあると思います。でも、今残っているのはセシウム137だから、もう還元期30年のものだから、そんなに以前のように自然減衰を期待できるものではないと思います。

桜並木の樹皮をむくのかむかないのかも質問に入っていて、答えてはもらってはいないのですけれども、やはり花見となれば確かに弁当持ったり、飲み物持ったり、まさか靴カバーやってそこからそっちは入らないでくださいとかという花見ではないでしょうから、その辺にもしかしたらシートを引いて腰かけるかもしれないし、夜の森公園であれば。そういったときに、数値目標がないというのは環境省、これ情けない、パフォーマンスでやりましたということではないのだから。だから、いろんなところで除染に関して数値の話は必ずついてくるけれども、きっちり全然答えていない。やっぱり頭の隅に20ミリ、3.8というのはあるのですか。そういう考えで、20ミリ以下であれば健康被害ないから、花見してくださいという考えがあるのですか、本部長。やはり私たちは、最低でもコンマ5くらいには下げてもらいたいのです。というのは、居住制限と解除準備区域、もう富岡町では除染終わりましたけれども、環境省発表では平均値で0.8くらいあるのです。今度は困難区域です。困難区域

は、居住制限とか解除準備区域よりも、除染はやってももっと高くなることが予想されます。1とか1.幾つで花見やってくださいというわけにいかないでしょう。目標値がないというのは、やればいいのかという考えがどこかにあるのではないかと。その辺の考え方をきっちり本部長、答えてください。

○議長（塚野芳美君） 坂川さん。

○福島環境再生本部長（坂川 勉君） まず、避難指示を解除するときの要件の一つとして年間20ミリシーベルト以下というものがある。それに相当する空間線量が3.8であるというところでございまして、そこまでは当然ながら認識しているわけですが、私どもとしては、その3.8というのは少なくともそこまでは必ず下げなければいけない。さらに、避難指示の解除に向けましては、今まで先行する市町村でもいろいろな議論がございましたけれども、私どもとしては除染をしてできる限り下げていく。3.8以下だからそれでいいということでは決してなくて、できるだけ下げていくという、こういう方針で今まで除染をしてきております。ですから、今回お示しした範囲の部分に関しましても除染を行いまして、今までは道路の部分しかやっていなかった。しかし、その道路と歩道のその外側の部分も含めて除染をすることによりまして、この線量がさらに下がっていくのではないかと、このように期待をしているところでございますが、ただなかなかこういった場所でどこまで下げることができるのかというところ、ちょっとこの時点で具体的にお示しするのはなかなか難しいと考えておりますので、まずは除染をやらせていただいて、その後でモニタリングでしっかりと把握をしてまいりたいと、このように考えております。

○議長（塚野芳美君） 赤羽さん。

○福島環境再生事務所県中・県南支所首席除染推進官（赤羽郁男君） 先ほど質問ありました桜の木の除染方法どのようにやるのかということで、25年の3月、4月に行ったときなのですけれども、福島県緑化センターの樹木医の指導のもとで桜の木の樹皮に関しては洗浄にて行いました。その洗浄も、どのぐらいの圧力をかけるかというのをご指導いただきながらやりました。

あと根本に関しても、根が傷まないようにということで、土壌の剥ぎ取りを行って、あと根に関しても損傷しないようなことで洗浄させていただきまして、その後腐植土を被覆した状態です。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

6番、遠藤一善君。

○6番（遠藤一善君） まず、1点目なのですが、除染の方法をお聞きしたいのですが、今までの居住制限区域よりも高いところの建物の周辺で、ホットスポットも多く見られる、出てくるといふふうに思うのですが、通常居住制限とかの場合には、ホットスポットはフォローアップでというような形でやっているわけですが、この緑の中現在はどういうふうに考えているのか。例えば桜の歩道はやったというふうに言っているのですが、歩道のところ除染しても、ご存じのように桜の木の根っことかそういうものがあって、アスファルトが割れていたりしています。ということは、もうこっこのフォローアップのほうで考えれば、アスファルトとか割れているところは再除染の対象になってい

るかと思うのですけれども、そういうところも含めてやってくれるのか。

それから、この道路沿いにはちょっと深めの側溝があるのですけれども、道路の。そういう側溝はどういうふうにしてくれるのか。それから、宅地の中の土の部分、あと植木が植わっている部分、その辺についてどのぐらいの剥ぎ取りを考えているのか。それと同じように、駐車場になっているアスファルトとかコンクリートのところをどういうふうにしていくのかという、除染の根本的な方法はこういうふうに戻還困難区域の中ということにしていくのかということをして1つ。

それから次、解体なのですけれども、この解体の順番なのですけれども、解体をすると希望した人の建物は一切除染しないままにして周りの敷地だけをするのか。順番によっては、解体ができるようなもの、根本的に除染ができないような建物もあると思うのですけれども、そういうものをどういう状態にしておくのか、その2点お願いします。

○議長（塚野芳美君） 赤羽さん。

○福島環境再生事務所県中・県南支所首席除染推進官（赤羽郁男君） 質問ありがとうございます。

先ほど質問受けました帰還困難区域内での除染方法、あと一度除染したところに関しての除染方法ということなのですけれども、まずこちらについては桜並木とあと道路に関しての除染に関しては、おっしゃるとおりクラック等には汚染物質がしみ込んでいる可能性は十分ありますので、こちらに関して私のほうでそこも入れて地面を主にするモニタリングを行いまして、高いようなところに関しては除染方法を、場合によればその舗装面に関してはカッターを入れてという感じでその除去物を取る方法で考えています。

あと、植樹帯に関しても、同じように今ここの植樹帯に関してはツツジ等がありますので、そちらに関して3年前は極力土をちょっと残したような状態で除染を行ったのですけれども、そのあたりもその植樹帯に関してももちろんモニタリングをやりまして、高いようでしたらもうちゃんと協議させて、そのツツジを撤去させていただくかということも踏まえて除染方法を決めていきたいと思っています。

あと、帰還困難区域に関しての除染方法なのですけれども、おっしゃることは居住制限区域と同じような方法でなく、もっとまたというふうに解釈したのですけれども、そちらのほうもモニタリング等も踏まえて、そして剥ぎ取り厚さに関しても試験施工踏まえながら厚さ等は決めていきたいと思っています。

以上です。

○議長（塚野芳美君） ちょっと待ってください。赤羽さん、側溝の部分。

○福島環境再生事務所県中・県南支所首席除染推進官（赤羽郁男君） 済みません、居住制限区域の側溝に関しては、底質除去ということで一度除染等は行っております。こちらに関して、ご指摘のとおりもう一度先ほどおっしゃった道路等のクラック等も踏まえながらモニタリングをしていって、そのあたりの判断を、追加で除染をするかというような判断をさせていただきたいと思っています。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策第一課建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） ご質問ありがとうございます。

ご指摘いただきました解体と除染の順番でございます。ご指摘のとおり、やはり解体を速やかに一刻でも早く着手をしてその上で除染に入るとというのがご懸念、ご心配というのをおかけしないやり方だと考えてございますけれども、申請がどれだけ速やかにいただけるのか、我々としても一生懸命考え、工夫をさせていただきながらさせていただきたいと思っております。最終的には地権者様ともよく相談いたしまして、不安のないように進めてまいりたいと思っております。ご指摘いただいた点につきましては、しっかり検討して実施してまいりたいと思っております。ありがとうございます。

○議長（塚野芳美君） 中川さん、ですから解体申請がなされた場合、要はどちらが早いかわいかなどと思うのですが、恐らく質問の中に含まれていると感じるのは。ですから、解体が間に合うのかと。そういう解体を希望する人に対しては、ですから解体をしてから除染するのかということをお聞きしますので、お答えください。

中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策第一課建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） 曖昧なお答えで申しわけございません。

議長のご指摘のとおり、解体申請いただきまして、解体が先に入れる箇所につきましては、そのように実施してまいりたいと思っております。

○議長（塚野芳美君） 6番、遠藤一善君。

○6番（遠藤一善君） まず、根本的な地面の除染なのですが、モニタリングをして決めますというような話なのですが、そうするとモニタリングの結果によっては土を、表土を30センチ、40センチ剥ぎ取るというようなことも起きるというようなことになってくるのでしょうかという点1点。

それから、解体なのですが、解体申請が出た建物は除染はしないのですか。そのままに置いておくのですかということもあわせてちょっと答えをお願いします。

○議長（塚野芳美君） 赤羽さん。

○福島環境再生事務所県中・県南支所首席除染推進官（赤羽郁男君） 済みません、言葉足りず。

剥ぎ取り、こちらにまだ私のほうで除染しているに当たりまして、まず試験施工を行いまして、その数値で、剥ぎ取り厚さ等を幾ら剥ぎ取りすればいいかということで決めて行っていますので、こちらに関してももちろん事前調査等でまずモニタリングを行いまして、あとこちらの受注した業者も事前モニタリング、除染前にモニタリングを行いますので、その後宅地に関して試験施工を行いまして、そこに関しての剥ぎ取りを決定して、除染を進めていきたいと思っています。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課事業管理専門官（中川春菜君） 議員ご指摘のとおり、解体を申請された方の建物については、除染をせずに解体を待って、その周りの敷地、庭だったりという部分を解体の前にやるのか解体の後にやるのかという部分はありますが、建物は解体する建物については除染は行いません。

○議長（塚野芳美君） 6番、遠藤一善君。

○6番（遠藤一善君） 帰還困難区域の除染ということで、多分大熊町ある程度先行されているとは思いますが、今回この桜の並木のところというところに関しては、特に桜をある程度見られるようにという気持ちも私は個人的に持っています。そう考えていきますと、ただ除染をするだけ、例えば間に合わないという、今まで見ていて解体がそんなにスムーズに進んでいるというふうには決して思えないのです。そうすると、建物を全く解体するからということで除染しないままに、線量の高い建物もあるかと思うのですが、そういうのそのままに、下は土地だけやって、それではいい、できましたといってモニタリングをしても、また線量が高いところがある。それを一番危惧しているのです。

それから、先ほどのそのホットスポットのところなのですが、済みません、ホットスポットというか、結果的にホットスポットになってしまうようなところは、再除染というフォローアップ除染ということを今はやっているわけですが、帰還困難区域もまたある程度やって、それはフォローアップというふうになってしまうのか、それとも今回一気にきちんと下がるまでやってくれるのかというところをもう一度お聞かせください。

○議長（塚野芳美君） 中川さん、ちょっとお待ちください。ですから、先ほどちょっと私が聞いていては、解体申請の出ているものの敷地はやらないと言ったかと思うのですが、その辺そこは後で解体してから除染するというふうに分かったのですが、そのことが1つと、それから富岡の3つの工区の中で、フォローアップも含めてやっている工区もあるはずですよ。ですから、今質問している遠藤議員の場合には、フォローアップ除染が後だというふうな捉え方していますので、例えばその2、その3みたいなフォローアップも含めてやるのかと、そのようなことを確認していますので、お答えください。

○福島環境再生事務所除染対策第一課事業管理専門官（中川春菜君） ホットスポット対策ということなのですが、その2、その3では確かに現在もフォローアップ除染のようなことというのを既に本格除染とセットでやっています。それは、既にここ、こういうところは深く掘ったほうがいいというようなところについては、ここについては深く掘りますというようなことで、ただそれも一律の仕様の中で行っているものになっています。それに対して、現在その後に行っているフォローアップ除染というのは、予定どおり深くは掘ったけれども、それでもまだ横方向にえぐらなければいけなかった場所とか、そういう一律ではどうしても取り切れなかった場所というのが、あるいはクラックです。コンクリートのクラックであったり、そういった部分を今フォローアップとして行っている状

況です。

ですので、詳細の実際に何センチ削るかというようなことについては、試験施工を踏まえ決定することになりますけれども、現時点におきましては、部分的な深掘りというのは最初から行いますが、フォローアップ除染というものはそれはそれで、それでも取り残したものについては後ほどやるということで、原則としてはほかの居住制限区域などと同じ２段階ということになろうかというふうに考えております。

それから、先ほど議長からご指摘を受けまして、曖昧なわかりにくい回答で大変失礼いたしました。が、建物の解体を希望されているお方の土地、建物については、建物については除染をしないと考えておりまして、ただやはり地域全体の線量を下げていくということを考えると、解体予定の建物というものもこちらのほうに記載しましたけれども、できるだけ除染と一体的に行うことで解体も連携よく進めていきたいと考えているところです。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策第一課建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） 建物解体を担当している中川でございます。今の回答の補足でございますが、解体申請の時期と除染の時期がやはり解体のほうが遅くなるのではと思っておりますが、ご指摘のとおりスムーズに除染側ともしっかり連携して、なるべく解体が先に入れるような体制をつくり上げて、ご心配の点というものを１軒１軒しっかり対応させていただきたいと思えます。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

13番、渡辺三男君。

○13番（渡辺三男君） ちょっといろいろ聞かせてもらっても、理解できない点ばかりで。

まず１点、桜通り先行除染、試験除染しましたよね。試験除染した場所も、一体的に今回の除染でやるのか。試験除染でやった場所はやらないで、線量調査しながら周りをやって、線量調査をしながら周りと同じくらいであればやらないのか、最初からもうやっていくのか、それお聞かせください。

あとは、当然これ先行で50メートルの範囲ということで、この青塗りの部分出てきていますが、この困難区域との境目を先行除染よりまだ早く早急にかかりたいというのが黄色塗りですよね。最終的に来年の早ければ４月の解除を目指すとするれば、この困難区域の線上からの50メートルは、富岡全体やらなくては多分解除はできないのかなと思うのですが、その辺はいつころ出てくるのか。その辺の数字も、きょうあたり同じく回答出てくるのかなと思ったのですが。といいますのは、遅いのです。国が頭から29年４月に解除しますよというもくろみの中で全て動いてきていて、やるのが遅いのです。これだけの除染をするには、かなりの時間かかります。この説明の中でも、この黄色塗りの部分だけでもかなり時間かかりますよね。そういうことから考えると、なかなかこの国の方針が定まらない。線量の問題もそう。原則的に20ミリ、3.8、それ以下には絶対しますよという表現ですが、そん

なのではとても帰れる数字ではないのですから、その辺をスムーズにやっぱりやってもらわないと、国の言うがままに町としても頑張ってきたつもりではいるのですが、私もそれなりに理解はしてきたつもりなのですが、どうも遅過ぎるというのが一つ私の今頭に浮かんでいるわけです。

解体のほうも、解体も今回の除染のほうで解体を希望する方は、迷惑かけないようにスムーズに解体して、即工期の中で除染しますよということなのでしょうけれども、ほかの解体が800軒も今年度壊す計画でいて、まだ解体に入っていないのです。工事着手していませんよね。もう1年、4月1日から3月31までと考えても、もう4カ月目に入っているのです、ことし始まって。それで、去年は500軒のうち三十何軒、40軒くらい残してしまったのでしょうか。今年度800軒で、やっぱり同じゼネコンさんに大半は発注する考えなのでしょうから、そんなに800軒もやるこっち側の解体もやると、できるのですか、本当に。その辺できないと除染した意味がなくなってしまうのです、この桜通りの除染。解体はできませんでした。そこの宅地は除染が残りましたでは、行けなくなってしまうわけですから、だからその辺をしっかりきょうあたりの説明会で回答できるような説明会にしてもらわないと何の意味もない説明会になってしまうのではないですか。

あとは、一番最初に質問した中で、現場代理人が町内に常駐していないと。そういう言葉も出ましたが、常駐していないような落札業者、そんなの指導云々の話ではないです。そういう業者に仕事出すほうが間違っているのだ。3年くらいペナルティー与えて、もう仕事から排除すればいいのです。それが環境省さんの役目でしょう。それ指導しますなんて甘っちょろいこと言っているから、何にもかんにも国のもくろみどおり進まないのです、これ。その辺をきちんとやってもらわないと困りますので、まずその先行除染、試験除染した場所も今回で全部除染一緒に最初からやるのか、それともそこはフォローアップとかホットスポットの除染だけで済ませるのか。あとは、困難区域からの50メートル、何で今回当たり町内全域にわたっての50メートルを発表できないのか。あとは、解体のほうは本当にもくろみどおり進むのか。環境省さんが一丸となって、どんなことあっても進ませるのか。本当であれば、あの町内の建設業者、建設協会にでも1社当たり20棟くらいずつ壊してもらえば、15社いますから300棟できるのです。簡単な話なのです、あなたらが出してくれれば。それを出せないでゼネコン、ゼネコンと言っている意味がわからないのですが、その辺どうですか、国の入札の適正発注のやり方があるからというのでしょうか、そんなのは適正と言わないのです。どうですか。

○議長（塚野芳美君） 須田さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課長（須田恵理子君） ありがとうございます。

ご質問の件ですが、まずその並木の先行でやった箇所を再度やるのかということですが、まずはその同じ手法でやっても、除染の効果は余り得られないということがわかっておりますので、その並木まずやったところとその周辺を、そこは除いてその周辺をやりまして、全体としてこの面的に全体を除染をしたという形にしようというのが今回の除染の計画であります。先ほど赤羽のほうから申し上げたとおり、必要があればフォローアップのような形で先行でやったところもやっていくとい

う形で考えております。

それから、その居住制限区域との隣接部分はこちらではないではないかということなのですけれども、まず帰還困難区域の除染については、先ほど本部長から申し上げましたとおり、夏に方針が出るということとして、その時点で考えていきたいというふうに考えておりますが、今回この並木の周辺については、復興拠点として町さんが位置づけられるということで、先行してやるということでご理解いただきたいと思います。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策第一課建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） 2点目にご質問いただきました解体の工事の件でございますけれども、ご指摘のとおりこの今年度の大規模工事の発注手続おこなっております、申しわけなく思っております。

そういった中で、いろいろこういったところを工夫できるのか毎日検討してございまして、今後の工事800軒ですとかそういった目標の数でございますが、それが本当に確実にできるというものの、加えて困難区域の境界の部分の解体ですとかもこれに加えて本当にできるのかという点、どういう発注の仕方ですとそれがしっかりできるのか今検討してございしますが、それを今後しっかりお示しすることで安心していただける安全な解体工事で、迅速で工期しっかり終わる工事というものを目指していきたいと思っておりますので、よろしくご指導お願いいたします。

○議長（塚野芳美君） 赤羽さん。

○福島環境再生事務所県中・県南支所首席除染推進官（赤羽郁男君） ご意見ありがとうございます。

現場代理人の常駐に関して、済みません、私もそこ指導不足だったのですが、まずこちらに関しましてきょう高橋議員また渡辺議員のほうからもこのような意見をいただき、私として富岡町の除染を監督する一員として、きょうのことに関しては福島事務所とよく打ち合わせし、工事契約の中にも現場代理人常駐と記載されていますので、この意味合い等も踏まえて、指導でなく今後2、3が常駐という、現場代理人が常駐しているということをおっしゃっていると思いますので、なぜその4ができないのかというのも、私たちのほうで指導ということでなく聞き取りをして、なぜこういうことなのかというのをしまして、また改めて返答させていただきたいと思っております。

○議長（塚野芳美君） 13番、渡辺三男君。

○13番（渡辺三男君） 試験除染した箇所については、同じ手法では下がらないから、あらゆる手法を今から検討して周りの50メートルをやってからホットスポットなり、そういうところをやっていききたいという、その中身はわかりました。

ただ、試験除染した時期がかなり早かったのです。ということは、かなり風で飛ばされたり、降り注いできた部分があるかと思うのです。あと、桜の木についていたやつが2年、3年、4年かけて落ちた部分もかなりあると思うのです。そういうことから考えると、無駄な手間暇をかけないで、最初から全面的にやったほうが私は早いのかなと思うのです。ただ、費用はかかります。ただ、人の

安全を考えた場合に、費用は語ってられないですので、我々直接的に影響しますので、費用云々でそういう手法をとるのであれば、これは間違っている判断かなと。ただ、あらゆる手法を考えながらといっても、もう4年、5年、いろんな手法でやってきているのですから、それは環境省さんは重々私は承知だと思います。だから、最初から全面的にやって、最終的に線量調査をしてホットスポットに手をかけるということをやっていないと、ますます遅れる一方だと。

あと、側溝の話もそうです。側溝も、調査してから清掃するかどうか考える。当然側溝だって汚れているでしょう。やるべきでしょう。あなたらは、20ミリという頭を持っているからやらないで済ませる部分も出るのかなという考え持っているのだと思います。私らは、住む人間としては20ミリなんては米粒ほども思っていないですから、やっぱり1ミリに近づけてほしいと。1ミリに近づけるにしても、1年や2年では1ミリ以下にはならないから、どこまででは除染で下げるのだということになれば、先ほどコンマ5という話も出ましたが、コンマ5、コンマ4、コンマ3と、ちょっとでも低く下げてほしいというのは私らの望みですから、ぜひそうやっていただきたいと。

あとは、この黄色塗りの部分ですが、言っていることはわかります。今回桜通りの50メートルでここが困難区域との隣接になっていますから、ここはいち早くやりたいと。ほかの部分は、最終的に国が判断して出てきますよということなのですが、29年4月を考えた場合には、もう始まらないと間に合わないでしょうと言っているの。全線困難区域の線引き。間に合わなければ間に合わないで解除できないのだから、それはそれで構わないですけれども、そのくらい努力していただきたいと、これはどっちかといったら要望です。国の方針が決まっていないうちやれと言っても、環境省さんに幾ら言っても進まないと思うので、その辺も重々頭の中に入れていてください。

あと解体なのですが、去年の前年度のことを考えれば、到底もう無謀な800軒という数字出しているのです。あと、そこに含んでこの桜通りの除染する箇所にも、かなりの数字出てくるのではないですか。先ほど470軒とか、除染する場所。470棟ですか。470棟のうち、恐らく半分くらい解体申請出てくるのではないですか。とてつもない数字になると思います。そこにいろんな手法とかいろんなことを考えて努力すると言っていますが、もう4カ月無駄にしているわけです。努力はイコールやっぱり日にちですから、日にちが365日の中でやるのと200日の中でやるのでは、到底できなくなります。その辺を踏まえてやっていただくことを期待しているのですけれども、どうなのでしょう。これ、発注形態が難しいのであれば、先ほど言ったようにもう少し簡単な手法で出す方法ないのかなと思うのですが、環境省さんはやっぱりゼネコン頼りなのですか。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所除染対策第一課事業管理専門官（中川春菜君） 既に一度除染を行った桜並木、その他幾つか施設もあるのですけれども、こちらについても改めて全部一緒にやったほうがよいのではないかというご指摘いただきましたけれども、こちらのほうでまずは事前調査入りますので、そのときに線量確認させていただいて、当然そのかつて除染したときの除染後の数値というものこちらは

持っておりますので、その後おっしゃるように何か飛んできたとか、木についていたものが落ちたりとかして再汚染が発生しているのかどうかというあたりきっちりと、あと側溝ですかも含め確認して、必要とあらば実施ということになろうかと考えておりますので、現時点ではまずは調査をして検討したいと思っております。よろしくお願いいたします。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策第一課建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） 解体工事につきましてでございます。現在環境省の解体工事で未着手の案件、申請件数、おおむね大体800軒から900軒前後と認識しておりまして、そのうち300軒につきましては、この7月の中旬ごろ開札を予定してございます。そうしますと、その未着手の案件をいかに進めていくのかにつきまして、今精いっぱい検討させていただいておりますので、そういったものをその7月の中旬の開札以降にお示しできるような形で持っていきたいというふうに考えてございます。

また、困難区域の今回お示しさせていただきました470棟のうちの解体につきましては、議員ご指摘で半数ぐらい申請があると結構大きな数ではないかということでございますが、環境省として速やかに解体をしなければならないと考えてございますのが6ページの1ぽつの居住制限区域との隣接部というところでございまして、ここにつきましては、その何百という数になるとは考えていないということでございます。そのように考えておりますので、その部分につきましては、早急に精いっぱいできるように持っていきたいと思っております。

また、最後のご指摘で解体工事で大手の建設工事会社に対してということでございますが、いろいろご指摘ですとか、こちらでも検討したものを含めまして、発注形態少し見直しをさせていただきまして、幅広く、例えばBの会社の企業体ですとかの参加を認めるですとか、そういったいろいろ工夫をさせていただきまして、競争の上で解体工事進めていきたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 13番、渡辺三男君。

○13番（渡辺三男君） ありがとうございます。

試験除染のところも一緒にやったらどうだということを今説明聞きました。ただ、線量調査してどうのこうのと言いますが、20ミリ頭に置いてもらっては困りますから。それを頭に置かないとすれば、何ミリを頭に置くのか、それが一番心配なのです。20ミリ頭に置いたのであれば、除染なんかなくても年間20ミリ以上被曝するような場所、町内には幾らもないです。それだけ頭に入れておいてください。20ミリ頭に置いては困る、数字言えと言っても言えないでしょうから。

あと、解体なのだけでも、困難区域の線上にある50メートルだけを先行で考えていると言っていますが、桜通りのほうも、桜並木の50メートル範囲も、残ったのではやった意味がないのです。全部終わりました。解体希望のうちが50棟ありました。これは、解体のいろんな条件が整わないから解体は年度内、除染が終わるまでできなかった。では、除染はできませんではやる意味がないのです、あつ

ちこっち残したのでは。だから、それも一緒に考えてもらわないと困るのです。だと思っただけでも、そういうふうには考えないですか。

○議長（塚野芳美君） 坂川さん。

○福島環境再生本部長（坂川 勉君） まず、最初のほうのご指摘ですけれども、20ミリシーベルト以下であればいいというふうには考えないでもらいたいと、こういうご指摘だと思ひまして、そこはおっしゃるとおりだと思っております。20ミリシーベルトというのは、避難指示解除のときの要件の一つとはなっているわけですが、それを下回っているからいいということではなくて、我々としては除染をしてできる限り下げていくということが必要だと思っております。

既に避難指示が解除された市町村においても、今まで同じような議論、ご意見がたくさん出てまいりました。ですから、私どもは20ミリを下回っていても、例えば前に比べてちょっと高いとか、そういうところはフォローアップ除染をしてできるだけ下げていくと、こういう努力をしてきておりますので、今後富岡町でもそういった指示解除に向けてのさまざまなご議論があらうかと思ひますけれども、そこはしっかりと議員のご指摘も踏まえながら対応してまいりたいと考えております。

○議長（塚野芳美君） 中川さん。

○福島環境再生事務所放射能汚染廃棄物対策第一課建物解体廃棄物処理推進室長（中川正則君） ご質問ありがとうございます。

花見をされる住民の皆様の目線にしっかり立ちまして、除染されたけれども、解体されていないからそういったことが意味がないというような、そういった事態が起らないようにしっかり除染側と連携をしながら、ご指摘の点を満足できるようにやっていきたいと思っております。ありがとうございます。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（塚野芳美君） なければ、質疑を終了いたします。

以上をもちまして、付議事件2、帰還困難区域の先行除染についての件を終わります。

環境省の皆様、お疲れさまでした。

説明者の入れかえと準備がありますので、2時20分まで休議いたします。

休 議 （午後 2時09分）

再 開 （午後 2時19分）

○議長（塚野芳美君） 再開いたします。

次に、付議事件3、富岡町文化交流センター災害復旧工事についての説明を教育総務課長より求めます。

教育総務課長。

○教育総務課長（石井和弘君） 大変お疲れさまでございます。お時間をいただきまして、私のほうから富岡町文化交流センター災害復旧工事についてご説明をさせていただきたいと思います。

全員協議会資料ナンバー3をごらんいただきたいと思います。富岡町文化交流センターは、東日本大震災による地震によりまして、建物本体や電気、機械設備に被害を受けたほか、雨漏れや長期避難により広範囲にカビなどが発生しております。

昨年建物全体の被害調査を実施いたしまして、今年度社会教育施設としての機能回復を図るため、復旧工事を行いたいと考えております。工事の概要及び今後のスケジュールについてご説明をさせていただきたいと思います。

資料の左側に主な工事概要と工程表、右側に平面図を記載してございます。今回の復旧工事につきましては、1番、外構工事、2番、建築改修工事、3番、電気設備工事、4番、機械設備工事と大きく4つの工種となっております。右側の平面図をごらんください。上から外構図、1階平面図、2階平面図、屋根伏図と表示してございます。まず、建築改修工事については、外部改修工事として右側図面中ほどの薄いピンク色で着色してあります建物の周囲の部分でございますが、テラスデッキの張りかえを行う予定でございます。内部改修工事といたしましては、濃いピンク色で着色してあります各部のクラックの補修、建具の改修、調整やカビによる壁などの改修を行う予定でございます。あわせまして、昇降設備工事としましてエレベーターの改修工事を行います。舞台設備工事といたしまして、中ほど水色で着色してあります大ホール舞台設備のふぐあいの改修を行う予定でございます。屋根の雨漏れ改修工事としましては、一番下の屋根伏図をごらんいただきたいと思います。青色で着色してある屋上漏水箇所の改修を行う予定でございます。

次に、電気設備工事につきましては、発電機設備工事、直流電源設備、電灯・コンセント設備工事、A V設備工事などの施設の全体的にわたる部分の修繕を行うものでございます。なお、A V設備工事につきましては、3番目の2階平面図の黄色で着色してあります視聴覚室や大会議室のA V機器交換になります。

次に、機械設備工事につきましては、空調・換気設備工事、排煙設備工事、スプリンクラー設備工事など、これも施設の全体にわたる部分の修繕を行うものでございます。

次に、外構工事につきましては、一番上の外構図、青色で着色してある駐車場の舗装の打ちかえや緑色で着色してある植栽工事が主なものになります。

最後に、今後のスケジュールについては、資料左側下の表をごらんいただきたいと思います。現在工事発注に向けて準備を進めておりますが、7月中に工事契約を締結し、8月より建築改修工事、電気設備工事、機械設備工事に順次着手しまして、12月初旬ころより外構工事を実施、約8カ月間の工期、来年3月中の工事完了を目指すものでございます。

概要につきましては以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（塚野芳美君） 説明が終わりましたので、これより質疑を許します。質疑ございませんか。

12番、高橋実君。

○12番（高橋 実君） 外構工事から。その①の透水舗装の路盤関係、あとはインターロッキングの路盤関係、これベクレルで管理するのか、シーベルトで管理するのか。

それと、2番目の建築改修工事、暗幕関係、ステージのやつは入っていないのだけれども、これは使えるのかどうなのか。

あとは3、4の電気設備、機械設備、これ配管関係。特に電気あたりでも壁の中に入っているやつ、外壁に入っているやつ関係、雨水とか何かが中に入り込んでいるところがあるのかないのか。どんな管理するのかちょっと教えてください。

○議長（塚野芳美君） 復旧課長。

○復旧課長（三瓶清一君） 外構工事の件につきましてご説明いたします。

外構工事の路盤につきましては、ベクレルで管理したいと考えております。

幕というのは、どんちょうでございましょうか。どんちょうにつきましては、これは全て交換ということを考えております。どんちょうにつきましては、洗濯がききませんので、新たなものにかえるということでございます。

あと、電気設備関係の配管なのですが、電気につきましては通電の確認はいたしまして、今のところ支障がないということで、線のほうについては交換はしない方向性でございます。はかつて支障があれば、当然交換ということになります。

水道管に関しましては、塩ビ管でありまして、これにつきましては配管は交換しないというふうにしております。被災箇所は、水道管はないということでありまして、若干ポンプは交換せねばならないというふうには考えてございます。受水槽に関しても、交換というふうと考えております。

以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（塚野芳美君） 12番、高橋実君。

○12番（高橋 実君） 聞き方悪かった。

電気設備及び機械設備で使う管材関係、外に露出したやつでも壁の中に入っているやつでも、水道破裂してかなり水が回っているから、管の中にそういう水道水、雨水類関係、外からだったら余計放射線入ってくるわけだし、そういうところのチェックをして、線は大丈夫としても管自体がもう、管自体が汚染してあるのかないのかちょっとわからないけれども、そこら辺十二分気をつけてやってくださいというのと、あと一括して言ったつもりだったのだけれども、これベクレルとc p mとシーベルトの3つ絡んでくるのかなと思っているのだけれども、ベクレルだったら3,000ベクレルでやるのか、c p mなら1万2,000c p m境にして以下低ければ低いほどいいのだけれども、シーベルトも同じくらいで勘定してどういうふうにするのか、方向づけが決まっているのであれば教えてください。

○議長（塚野芳美君） 復旧課長。

○復旧課長（三瓶清一君） 路盤に関しましては、ベクレルの測定をしまして、3,000ベクレル以下であればそのままの状態です。すき取りはしないのですけれども、調整材も3センチほど見ておりますので、路盤材につきましては3,000ベクレル基準とします。

それから、配管関係の洗浄でございますけれども、洗浄に関しましては事前に調査をしております、おおむね大体多いところで0.57ぐらいですか、少ないところだと0.06程度でございますので…

〔「単位は」と言う人あり〕

○復旧課長（三瓶清一君） これは、マイクロシーベルトでございます。

それから、高線量です。8,000ベクレル以上のやつとかが出てくる可能性もありますので、それは基準に従いまして処理を行いたいと考えています。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 12番、高橋実君。

○12番（高橋 実君） とにかく人の集う場所だから、低いのは幾ら低くてもいいから、そこだけしっかり管理して下げるような改修工事やってください。お願いしておきます。

○議長（塚野芳美君） 復旧課長。

○復旧課長（三瓶清一君） 線量に関しましては十分管理しまして、なるべく低いような方向性でやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

4番、堀本典明君。

○4番（堀本典明君） 1点だけ。木製テラスデッキの張りかえというふうにあるのですが、これは線量の問題で張りかえなのか、実際に壊れてしまっているの張りかえなのか、教えていただきたい。

○議長（塚野芳美君） 復旧課長。

○復旧課長（三瓶清一君） 木製デッキにつきましては線量でございまして、木でございまして、なかなか取れないということで、全部打ちかえであります。もうやり直しということで考えております。

○議長（塚野芳美君） よろしいですか。

○4番（堀本典明君） はい。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

5番、早川恒久君。

○5番（早川恒久君） 工期のことで聞きたいのですが、今月中に業者選定して8月、これで見ると上旬から工事開始ということなのですが、そんなに早く本当にできるのかなというふうに考えてしまうのですが、もう業者が決まっているのでしょうか。

○議長（塚野芳美君） 復旧課長。

○復旧課長（三瓶清一君） 工事につきましては、これから発注ということでして、工期についてはコンサルさんのほうで大体出していただいていますので、おおむね8カ月でできるであろうというふうに伺っておりますので、8カ月となっております。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 5番、早川恒久君。

○5番（早川恒久君） 工期は8カ月というのはわかるのですが、もうあと1カ月もないのに工事開始が本当に業者も決まっていないのにできるのか、ちょっとその辺が普通に考えるとどうなのかなという感じするのですけれども、本当に大丈夫なのですか。8月上旬から工事始められるのですか。

○議長（塚野芳美君） 復旧課長。

○復旧課長（三瓶清一君） 発注につきましては、通知はもう既にしておりまして、今月13日に入札というふうな工程でありまして、残り工期考えますと大体8カ月となりますので、工事は完了するものと考えております。

以上であります。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

13番、渡辺三男君。

○13番（渡辺三男君） これ外構のほうで、植栽部は雑草撤去の上芝張りとなっておりますが、これ土入れかえもするのでしょうか。ある程度50とか100土入れかえして芝張るという考えでいいですか。

あと、先ほど4番さん聞きました、このデッキ部は線量が高いということで、実際どのくらいあったのか、除染前と除染後。その数字をお聞かせください。

今回張りかえするに当たって、同じ材質で張りかえするのか。多分あの材質何と言ったか、20年も30年ももつ材質だと思うのですが、同じやつでやらないとまた二度手間になってしまうのかなと思いますので、その辺もお聞かせください。

○議長（塚野芳美君） 復旧課長。

○復旧課長（三瓶清一君） まず、外構ですけれども、これは当然土は入れかえしまして、芝を張りかえるということでございます。

デッキの除染の数字はちょっと確認できないので、後ほどお知らせしたいと思います。

〔「それならいいです」と言う人あり〕

○復旧課長（三瓶清一君） 木は、なかなかふいても落ちないということで、張りかえと考えておりまして、それから張りかえ材につきましては、災害復旧ですので、前と同じ材質で張りかえすることになります。

以上です。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（塚野芳美君） なければ、以上をもちまして付議事件３、富岡町文化交流センター災害復旧工事についてを終わります。

その他でございますか。

企画課長。

○企画課長（林 紀夫君） お疲れさまでございます。特例宿泊の実施、それから準備宿泊に関してご報告をさせていただきたいと思います。

去る６月１３日定例議会におきまして、平成２９年４月の帰還開始を確かなものとするためにさまざまな取り組みを加速させる。それから、夏頃の開始を視野に準備宿泊実施の準備を進めると町長が町政報告の中で申し上げました。仮設住宅自治会などとの座談会においても、帰還に向けた工程を示すとともに、帰還準備のために準備宿泊の早期実施を望むとのことご意見、それからご要望もございました。これらのことから、準備宿泊の実施について、今月末からの町政懇談会で説明をさせていただき、町政懇談会でのご意見や先月より行っております座談会でのご意見を踏まえ、準備宿泊の開始時期を判断してまいりたいというふうに考えておりますので、ご報告をいたします。

また、すぐにでも町内に宿泊したいというお声もあることから、まずは７月２３日から８月２１日までの３０日間、夏期の特例宿泊を実施してまいりますので、あわせてご報告をしたいと思います。

なお、前３回の特例宿泊において町内に宿泊された方々からは、生鮮食料品や日用品の購入環境、それから住宅修繕などの住環境回復など生活に必要な機能の回復、それから防犯、防火対策、飲料水の安全確保などの安全の確保についてということでご意見をいただいております。改めてこれらのことについて回復、それから整備を進めてまいらなければならないというふうに強く感じたところでございまして、今後もこれらの課題についてより具体的な対応ができるよう努めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

特にですが、共通して多くのご意見、ご懸念をいただいております徹底した除染の実施につきましては、強く環境省に求めてまいるとともに、内閣府や復興庁などとも国を挙げて対応が必要であるというふうにも考えておりますので、このことについて各省庁に強く求めてまいりたいというふうに考えております。

済みません、繰り返しになりますが、本日は準備宿泊の開始時期などについて国との協議を始めたというご報告、それから夏の特例宿泊を７月２３日土曜日から８月２１日日曜日までの３０日間行うということをご報告申し上げたいと思います。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 報告ではありますけれども、手短にもし質疑があれば。ございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（塚野芳美君） なければ、ではまだその他ございますね。

安全対策課長。

○参事兼安全対策課長（渡辺弘道君） それでは、ご報告申し上げます。

町は、平成28年6月27日、国と福島県、そして楡葉町との4者において管理型処分場の周辺地域の安全協定を締結しましたので、ご報告いたします。4月の全員協議会でも説明がありましたとおり、国は今後既存廃棄物の埋め立て直しや管理棟の建設など、特定廃棄物の埋め立て処分事業に必要な準備工事を実施していくとの報告を受けております。町としても、地域住民の安全、安心の確保等をし、国に求めるとともに、安全協定に基づきしっかりと監視してまいります。

また、今後引き続き地元への丁寧な説明、風評被害対策や地域振興策について国の責任ある対応を求めてまいります。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 安全確保に関する協定書についての報告が終わりました。

質疑があれば手短にお願いしたいと思います。

7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 8条の立入調査のところなのですが、これは抜き打ちで入れるというふうに解釈できるのでしょうか。異常な事態が生じた場合となっているから、抜き打ちではなくて異常な事態でないと入れないのかなというふうに読み取れるのだけれども、その辺の考え方はどうでしょうか。

○議長（塚野芳美君） 安全対策課長。

○参事兼安全対策課長（渡辺弘道君） お答えします。

抜き打ちの場合とか緊急時の立ち入り含めて、基本的には立ち入りが可能であるというふうに確認しております。

以上で終わります。

○議長（塚野芳美君） そのほかございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（塚野芳美君） それでは次に、もう一つあるのですね、その他で執行部で。

企画課長。

○企画課長（林 紀夫君） 済みません、たびたびで申しわけございません。本日4時からになりますが、株式会社アトックスとの地域連携協定を締結させていただくこととしております。

目的といたしましては、官民協働による町づくりを推進するため、相互連携を緊密にし、地域の経済活性化及び住民生活の向上に資するということでございます。富岡工業団地にアトックスが進出することに伴っての地域連携協定を結びたいというふうに思っております。4時から協定を結ばさせていただくということになります。

業務概要、その他につきましては、委員会等々でお知らせはしておりますが、従前の業務内容に加

えまして、倉庫業を兼ね町内で事業を再開したいということでございます。

懸念されることについて、例えば原子力発電所内からのさまざまなものを倉庫業として持ち込むのではないかということも懸念されますので、ここについては一定の縛りをかけ、例えば原子力発電所内で使用されたぞうきんであるとか、防護服系を持ち込むということがないようにというようなことで協定を結ばさせていただく。それから、倉庫に持ち運び入れるものについては、法令に基づいた形でやっていただくというような協定になっております。

今後の予定でございますが、本日協定を結ばさせていただいて、実は8月上旬に落成式、それから工場、倉庫のお披露目をしたいと株式会社アトックス申しておりましたので、そのことについては皆様に後ほどご案内をしたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） これも報告であります。もし質疑があれば手短に。ありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（塚野芳美君） それでは、議員のほうからその他でございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（塚野芳美君） では、なければ、以上をもちまして富岡町議会全員協議会を終了いたします。

お疲れさまでした。

閉 会 （午後 2時45分）